繪事比肩
禄
中
87

繪事比肩巻之中

楊貴妃

楊貴妃名ハ太眞蜀州の司戸楊玄琰が女なり唐の玄宗是を寵しく自ら玉笛を教え其艶色六宮の第一たり

小督
小督ハ高倉帝の寵姫なり
大政入道清盛の威をおそれて
ひそかに宮中を出づ

帝
哀慕し給ひ
弾正大弼
仲国に命じて
尋しむ仲国
小督の箏の
音をききて
めぐり
あひ
しとも

四皓

東園公綺里季甪里先生夏黄公是商山に隠れし四皓

採芝の歌をつくり世をのがれてゐる隠者なり

源頼光四天王
綱公時定光末武ハ
頼光の近臣なり
是四天王の
はじめなり

七賢

嵆康　阮籍
阮咸　山濤
劉伶　向秀
王戎

是を晋の
七賢と
いふ
竹林に
遊び酒を
のミて
楽めり

新歌仙（しんかせん）

後京極

あすよりハ志賀の花ぞの まれにだに
たれかハとはん 春の故里

慈鎮

まちよのひえの社のゆふだすき
かりそくもいのみちをよへとも

俊成

さくらばな
峯の梢うつもれて
月まてころは 天乃かく山

俊成（しゆんぜい）

家隆（かりう）

定家（ていか）

後京極摂政
慈鎮
西行

飲中八仙
賀知章が酔て馬ニ
乗るハ船ニのるが如
くゆらゆらと
井ニ落るとも
ねむれ
汝陽王ハ三斗の酒
を傾けてもなほ麹つくる
車を見れバ涎を流せり
左相李適之ハ日ごとニ万銭を
費して酒令の料とし酒を
飲むこと鯨の百川を吸ふ
ごとし
宗之ハいときよらかなる美少年
なるが觴をあげて天をながむる
宗之
蘇晋
汝陽
左相

さる風のおもてる玉樹の
いさぎよきが如し
蘇晋ハ弥勒佛の弟子斎
しく酒をのミ禅理を
愛せり
李白ハ一斗の酒をのミ
百篇の詩をつくりて
自ら酒中仙と称し
天子のめしもきかざりし
張旭ハ三盃の酒を引して
帽を脱し髪の毛を墨ニ
浸して草書をかく事烟
の如く殊に好めり
焦遂ハ平日ハ口吃て談ざる
ものなりしかといへども五斗の
酒をのミぬれバ後ハ言舌さハやか
にして雄辯人をおどろかしけるとなん

張旭

知章

焦遂

李白

八隠士

山崎宗鑑ハ始常徳院義尚公の侍童也後油をうりて世を渡れり

松永貞徳ハ明心居士と号して長頭丸逍遥軒圓陀麻呂これハ別号なり

貞室ハ洛人なり芳野の花を見て

これハゝゝとばかり花のよしの山

長嘯子ハ若狭少将勝俊なり剃髪して東山に蟄居し老後西山に

かゝる天哉翁と号をあらはせ
不挙白集あり
宗祇ハ連歌ニ長ぜり旅行
をこのみ家をもたで髭を愛
しく自ら香
を薫ぜ種玉菴と
号せそ
肖柏ハ宗祇の門人なり
又牡丹花と称せ酒香花
の三ツを愛しく三愛記をつくれり
芭蕉菴桃青ハ伊賀の産なり始の
俗称を松尾甚七郎といへり後菴号
をもて行る俳諧中興の祖といへり
油煙斎ハ京師の人なり鯛屋貞柳
といふ狂歌に名あり
油煙斎
宗祇
芭蕉
肖柏

酒顚

酒顚童子ハ大江山にすめる鬼なり源摂州頼光是を退治せり

白猿

もろこしに白猿の歳ふるが白猿大王と号し婦女を掠めとりて妾ハ白猿傳に見へたり